

平和学習 R5.8.25

8月9日の登校日が台風により休校となったため延期されていた「平和学習」を8月25日に実施しました。

第1部は、「長崎の原爆」という演題で、本校地歴科山田和浩先生による講話を行いました。当時の戦況と原爆の誕生・構造について、なぜ日本に投下したのか、目標都市の選定基準など相手国視点の内容と、原爆の被害「①爆風」、「②熱線」、「③放射能」について、そしてその後の世界の「核」の保有と爆弾のレベル拡大などについての話がありました。

第2部は、「清峰平和宣言」を生徒会長が読み上げ、7月に全校生徒が作成し、代表作品を掲載した「平和メッセージ作品集」を平和学習委員（生徒）が朗読しました。

～「平和メッセージ作品集」より～
(1年生)

*学校へ行く。勉強をする。友達と遊ぶ。ご飯を食べる。私たちが当たり前のようにやっていることこそ「平和」。今できることを一生懸命に。

*世の中には自分と合わない人は必ずいるだろう。しかし戦争時代は合う合わないに関わらず理不尽に攻撃された。そう思うと、合わない人と仲良くしてみようと思うのは、大切なことだ。



■平和宣言

2023年
清峰平和宣言

78年前——。たった一発の原子爆弾によって、長崎市では7万人以上の人が命を奪われ、多くの人たちが、そして子供たちが犠牲になりました。それぞれの人がそれぞれの人生があり、夢があり、愛する家族がいました。
ここに改めて、過去の戦争と原爆で亡くなられたすべてのの方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

昨年、爆撃により破壊された町や苦しんでいる人々の姿が毎日のように報道され、核兵器が本当に使用されてしまうのではないかと不安が高まっています。
また、私たちが住んでいる日本でも、ミサイルの飛来や、人の命を簡単に奪ってしまうような悲惨なニュースが流れ、平和とは何だろうと考えさせられます。

私たちは、コロナウイルスと共に過ごした日々を通して、当たり前だと思っていた日常が、実は当たり前ではなかったということに気づきました。戦時下では、日常はきの何百倍も悲しいものとなり、もっと多くのものが失われ、一番大切な命までも犠牲にさらされてしまうことでしょう。

このような状況の中、平和な国際社会を築き上げていくために、高校生である私たちに何ができるのでしょうか。
私たちは想像することができます。当たり前の日常がどんなにありがたいことか感謝することもできます。自分の頭で考えることができます。平和を祈ることができます。たとえ小さな一歩であったとしても、自分の思いを行動に移すことができます。

戦後78年。被爆された方は、年々ご高齢になっています。私たちは、被爆を体験された方々からしか話を聞ける最後の世代です。長崎県で育ち、子どもの頃から平和について学び続けてきた私たちの使命は、核兵器や戦争がもたらす悲惨さや、平和の大切さ、命の尊さを世界の人々に伝え、未来に語り継いでいくことではないでしょうか。そのために、私たちはこれからも学び続け、広い視野をもつことが大切なのだと思います。

そして、身近な平和を守るという意味からも、誰もが安心して学校生活を送るためにも、自分のことも相手のことも大切に。思いやりの心を持って行動し、苦しいときは助け合って生きていくことが大切なのだと思います。

未来に生きる人々のため、平和な世界をつくるため、私たちは次のことを誓います。

1. これからも戦争と平和、そして命の尊さについて学び続けます。
2. ここ清峰高校から戦争の悲惨さ、無意味さを訴え続けます。
3. 常に平和について考え、平和な世界を希求する心を後世にまで伝えていきます。
4. 一人ひとりが互いの個性を認め合い、尊重し、相手を思いやる心を持ち続けます。

全世界の人々が、ひとしく「戦争の惨禍から逃れ、安全で平和な社会に生きる権利」を持っていきます。21世紀を平和な時代にするために、私たち清峰生は、常に平和を愛する存在であり続けることをここに宣言します。

2023年(令和5年)8月9日
長崎県立清峰高等学校生徒会
および
平和学習委員一同

(2年生)

*明日を楽しみにできる。この幸せを自覚しよう。美味しいものをいっぱい食べられて、友達と笑えれば幸せです。

*ケンカする時間で人のいいところを見つけよう。ささいなことから、平和を乱すことがはじまってしまう。自分の行動に責任をもとう!!

(3年生)

*平和のために、まずは隣のあなたを私は幸せにしたいです。

*一人が笑えばみんなが笑う

一人が優しくすればみんなが優しくなる

一人が泣けばみんな泣く

一人の行動で世界が変わる！！

*つなごうバトン 次は僕たちの番だ

*相手を批判する言葉は刃物になる。相手の心に

一生の傷として残ってしまう。安易ではなく、

ちゃんと考えて発言しよう。



～生徒の感想文（一部抜粋）より～

(1年生)

*今日の平和学習を通して、私が感じたことは、戦争はとても悲惨で、今後も決してやるべきではないということです。山田先生の講話では、長崎に原爆が投下されるまでの流れ、投下された後の街の被害など、詳しい話を聞くことができました。聞くことのすべてに衝撃が大きく、当時被害を受けた方々のことを思うと、とても胸が痛みました。

*被爆者の方々が一生懸命訴え続けた戦争の悲惨さ、平和の大切さを、私たちが語り継いでいくべきだと思った。

(2年生)

*講話を聞いて、私は戦争についての知識が増え、平和の大切さがよくわかりました。戦争について、平和について学び続けるべきだと思いました。学ぶことによって平和の大切さを知り、周りの人へ、世界へと、平和の大切さ、命の大切さを伝えることができると思ったからです。

*皆が書いた平和メッセージを読んで、私は、その様々な言葉から、思いやりの心を持つ、いじめをしない、偏見や差別をなくす…など、当たり前なことを当たり前にしていこうと思いました。

(3年生)

*「平和メッセージ作品集」は、高校生である私たちには何ができるかを考えさせられるような作品が多く、今までの自分の行動を思い返しながらかく読むことができました。

*私は、長崎県民として生まれて長崎で育った以上は、長崎原爆について深く学び、当時の状況や被災者の声などを次の世代に伝えていかないといけないと思うし、伝えることが義務だと思っています。被爆された方の数が減っていても、原爆を知らないという人を増やしてはいけなないと思います。

*今回の講話を聞いて、改めて戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ、平和の尊さがわかりました。これまで小・中・高と平和学習をしてきて良かったと思いました。被爆地の長崎に住んでいたから学べ、戦争のこと、原爆のこと、平和のことについて知ることができました。被爆を体験された方が少なくなっているからこそ、自分たちが教えてもらったことを忘れずに、次の世代に語り継いでいかなければならないと思いました。